

第3部 実戦編

第8章

2011年1月のトレード日誌
(1カ月間のトレード)

1 2011年1月7日のトレード日誌

◎1回目のトレード (5万通貨)

この日は金曜日でした。金曜日は夜に雇用統計などの大きな指標もあり、突然、相場が荒れる危険も考えられますので、普段はトレードを控え目にしています。ただ、この日は比較的午前中に相場が落ち着いていた(図1の点線枠)ので、ワントレード試してみることに……。ちょうどVの字を描くような形で勢いよく下がり、そのあと急な角度で戻しを始めていたので(図1)、戻り始めを確認し、「ここなら10 pipsは取れるだろう」と思い、買い(ロング)でエントリーしました。

私は、エントリー前にはできるだけ「今の相場の様子」を見るようにしています。具体的にこの例で説明すると、大きな陰線のあとに下ヒゲのある少し大きめの陽線が出ていますね(図1のA)。ここで、過去の経験から何となくではあったのですが、「もう下げていける力はなく、GMA (GinaMA) まで戻ってきそうだな」と考えました。実際、この前のチャート(図1の点線枠)を見ていただくと、ここに来るまでの間に勢いはないものの徐々に下げてきていたことがわかってと思います。そして、私の思惑通り、しばらくすると、リミットに到達しました(図2)。

ここで、183ページの図3を見てください。中には「1回目のエントリーの前にもチャンスがあったのに、どうしてエントリーしていないのだろう」と疑問に思う方もいるかもしれません。私が“エントリーしなかった”理由をお話しします。

この例では、トレンドが一方向なのにもかかわらず、下落が緩やかすぎました。このような場合、「戻りも緩やかだ」と私は考えています。実際、図3の画像の1回目のチャンス(乖離ライナーにタッチした段階)では、まだチャートを立ち上げていませんでした。2回目のチャンスのとときに

◆図1 (1回目のエントリー)



◆図2 (1回目のエグジット)



はチャートを見ていましたが、1回目のポイントでの戻りが緩やかなまま2回目のチャンスが来てしまっているということは、戻りが弱い(=下落の力が強い)のではないかと考えてスルーしました。形としてはVの字を描くようなパターンがもっとも勝ちやすいパターンです。

そして3回目のチャンス(乖離ライナーにタッチした段階)になりました。しかし、ここに来るまでの間にGMAを超えていくことなく、少しずつ下げてきていますから、「もしかすると、このまま勢いづいてグッと下げていくのではないだろうか」と考え、様子を見ました。

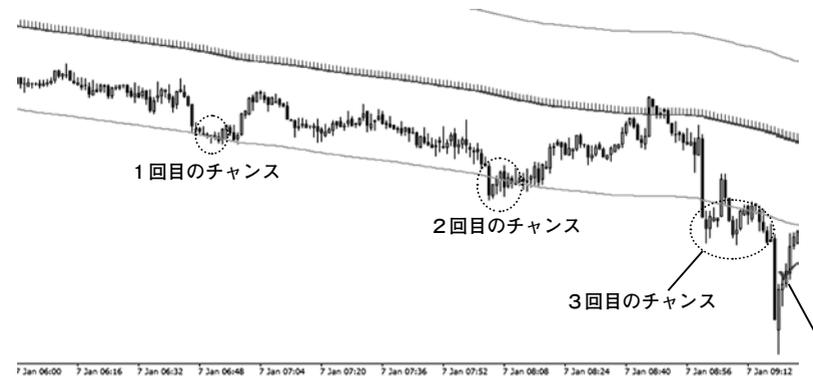
私の今までの経験では(もちろん時と場合によりますが)、このような下げ方の後は勢いよく下げ、V字になって戻りはじめる場合と、下げてそのまま再びレンジになり、その後になって、また下げはじめる場合の2パターンがあります。今回の場合はどうだったかという、一度グッと下げたところで戻りはじめました。

ここで、話が少し前後しますが、大切なことをお話ししておきます。**この手法で気をつけないといけないことは、「チャンスが来た!」と、下げている(もしくは上げている)途中で焦ってエントリーしないことです。落ち着いて反転のサインを探してください。**この例の場合は、下ヒゲのある少し大きめの陽線が戻り始めるシグナルのように見えたので、試しにエントリーをしました。

この時点での私の考えは2つ。ひとつ目は「万が一、そのまま戻さなければプラスマイナスゼロくらいのポイントで損切り」であり、2つ目は「逆行したらマーチンゲールで回避」です。マーチンゲールを使うからといって、損切りをしないわけではないのです。できるだけワントレードを早く済ませられるように、「これはマズイな!」と事前に察知できたポイントでは損切りもします。

また**今回はこのような形でエントリーしましたが、毎回同じ形がやってくるわけではありません。**もちろん、似たような場面に出くわすことはあるでしょうが、あくまでも常にケースバイケースであるこ

◆図3



とを肝に銘じておいてください。ちなみに、実際にトレードしているときの心境は今ご説明したように細かく考えてはいません。

毎日繰り返してトレードをしているので、今お話ししたようなことはおそらく私の潜在意識の中で行われているのだと思います。

私にとってはトレードすることは呼吸をすることと同じなのです。皆さんは呼吸するとき呼吸の仕方を考えますか? 例えば、まずは肺のこのあたりまで息を吸って、ちょうど良いところでゆっくり吐き出してとか、今は酸素が足りないからあくびをしようとか。普通はそんなことは考えませんよね? それと同じなのです。実際は何となく相場のリズムを感じて「ここなら行けるかな!」と思ったところでササッとエントリーしています。これが“慣れ”なのだと思います。

ですが、慣れとはいえ、エントリーを決めた理由は必ずあります。そのときは深く考えていませんが今までの経験からきちんとした理由があります。私自身もこの本を書いていて初めて気づきました。慣れることは最初のうちは難しいかもしれませんが、毎日毎日繰り返すうちにできるようになってくると思います。

今回のトレードの結果: 1.54233 → 1.54349 (約 12pips)

(※取引明細については259ページ~261ページに一括で載せています)

ント（図6の点線枠）です。GMAからの乖離もかなりあり、V字のような角度はないですが、高値付近にいるものの勢いがなくなってきています。ここでは「さらに上に伸びるほどのエネルギーが感じられないので、GMAまでは戻さなくとも10 pips程度の戻りはつけそうだな」と考えました。そこで、売り（ショート）でエントリー（図6）です。ここも、エントリー後、うまいこと下がっていかれました（図7）。

画像を見ていただくとわかるとおり、**すべてのエントリーが「本来の13 pipsのエントリーポイント（＝乖離ライナーにタッチしたところ）」ではありません。なぜなら、相場の勢いを見ているからです。どういうことかという、勢いがあるときは、できるだけ「天」や「底」をとらえてからエントリーしたほうが有利になるからです。**結果として、10 pips 取れば良いわけですから、「ここなら10 pips は下げていきそうだな〜」と思うポイントでエントリーしています。

もちろん、**相場が落ち着いていて13 pipsの乖離ライナーの間を上下しているようなときにはあまり深く考えず、乖離ライナーにタッチした後、少し勢いを見てからエントリーしています。**「13 pipsの乖離」というのは、「目安」ではありますが「必ず」ではないということを頭に入れておいてくださいね。

今回のトレードの結果：1.55764 → 1.55615（約15 pips）

◆図6（3回目のエントリー）



◆図7（3回目のエグジット）

